



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.63

2014 (平成 26) 年 2 月 21 日 (金) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 小川鶴蔵)

1	はじめに	1
2	海外派遣募集	2
3	国際シンポジウム開催案内	4
4	第 18 回東京大会開催案内	5
5	行事開催報告	7
5.1	応用生態工学会金沢 第 2 回研究発表会 ..	7
5.2	応用生態工学会福岡 2013	10
6	理事会、幹事会報告	13
7	2013 年度行事結果と今後の予定	18
8	事務局より	19

1 はじめに

今年も残るところあと僅かとなってまいりましたが、2 月 28 日には、2013 年度最後の学会行事、共催：東京農工大学・応用生態工学会で、東京農工大学府中キャンパスにおいて、国際シンポジウムを予定しています。放射能と震災後の流域管理をテーマにしたシンポジウムです。同時通訳も用意しています。ご参加下さい。

さて、2014 年度の第 18 回大会は、東京に決まりました。東京大会開催案内をご確認下さい。

今回のニュースレターは、これらの記事の他、2014 年度海外派遣員の募集案内、2 月 13 日に開催された理事会の報告、11 月以降に開催した各地域での行事報告などをお伝えいたします。

2 2014 年海外学会派遣員の募集

国際交流委員会

応用生態工学会・国際交流委員会（五味高志委員長）では、2014 年の海外学会等への派遣研究員 1 名を、下記により募集します。

【海外学会等への派遣者募集要領】

(1) 目 的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われて来ている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

(2) 選 考

1) 資 格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする。）
- ② 学生あるいは 35 歳未満の大学・研究機関研究者、技術者

2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての助成額を 15 万円とし、原則一名、場合によっては 2 名を選考する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

3) 派遣後の必要要件

- ① 派遣研究員は、派遣対象の海外学会等の報告を応用生態工学会ニュースレターに投稿掲載する。
- ② 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、和文誌である応用生態工学会誌（原著論文、総説、短報）、もしくは英文誌である Landscape and Ecological Engineering (Original Article, Review, Short Communication) に論文を投稿するものとする。
- ③ 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ④ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。

(3) 申 請 書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（〒・住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、男女、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送り下さい）、および派遣希望理由（選考基準参照のこと）を、A4

計二枚以内（書式自由）にまとめ、E-mail にて事務局に申し込み下さい。

(4) 申込期限

2014 年 4 月 11 日（金曜日）事務局必着 (eces-maneger@ecesj.com)

(5) 派遣決定時期 2014 年 5 月上旬

3 国際シンポジウム開催案内

「国際シンポジウム：流域生態系における放射性物質動態と生物への移行
～震災後の流域管理に向けて～」

共催：東京農工大学・応用生態工学会

福島原発事故による放射能汚染への対応が急がれる中で、生活基盤の整備や農林水産業などにおける放射能汚染対策へ向けた様々な対応や研究が展開されている。放射能汚染は、日本における喫緊の課題であり、放射能汚染に対して産・官・学がどのように対応・連携していくことが重要となります。福島県や周辺地域においても水系網における放射性物質の動態や生態系への影響について、森林から農地や水田さらには沿岸域に至るまで、様々なモニタリングや研究が実施されています。適切かつ有効な対策の提唱には、先行事例の吟味が不可欠であることから、本国際シンポジウムでは、関連分野で多くの業績を積み重ねている専門家からの報告などを踏まえて、応用生態工学的な視点から、放射能汚染に対する環境や生態系の応答、これらの流域管理手法などについて意見交換を行います。

日時：2014年2月28日（金曜日）13時00分～17時30分

場所：東京農工大学府中キャンパス2号館1階2-11

http://www.tuat.ac.jp/basic_information/access/index.html

参加費：無料

同時通訳あり

参加申込み：お名前とご所属（学生の場合はその旨）を、2月21日（金）までに下記に送りください。懇親会（参加費一般：3000円、学生：1000円）参加希望についてもご連絡ください。

五味高志 (gomit@cc.tuat.ac.jp)

13:00 趣旨説明（五味高志，東京農工大学）

13:10（40分）Dr. Jeffrey J. Whicker (Los Alamos National Laboratory, USA)

「放射能汚染地域生態系の適応的管理」

13:50（40分）Dr. David J Rowan (Atomic Energy of Canada Limited, CANADA)

「淡水生態系における放射性セシウム動態：なぜ生物種間でのセシウム蓄積はばらつくのか？」

14:30 ポスターセッション（70分）

15:40（40分）Dr. Karolina Stark (Stockholm University, SWEDEN)

「両生類から見た放射性物質のリスク」

16:30（60分）総合討論（進行：五味高志）

18:00 懇親会（東京農工大大学生協2階オリザ）

【ポスターセッション】国内外の森林や農地・水田における陸域や水域生態系の放射性物質動態、生物への蓄積や影響評価、震災後の生態系の復旧事例などについてのポスターセッションを開催します。ポスターはA0の縦サイズになります。ポスターセッションの参加希望者は下記に参加申し込みを行ってください。申し込みの際に、英語にて、発表タイトル、著者、所属、簡単な発表要旨（英語で250字程度）をお送りください。

ポスターセッション申込み先：境優（Masaru Sakai）m-sakai@cc.tuat.ac.jp

ポスター発表申込締め切り：2014年2月21日（金曜日）17時00分まで

4 応用生態工学会 第 18 回東京大会開催案内

応用生態工学会 2014 年度の第 18 回大会は、2013 年 12 月 20 日～26 日の第 69 回理事会（メール会議）において、以下の概要が決定しました。

第 1 回実行委員会は、2014 年 1 月 16 日に開催し、開催準備がスタートしました。

■大会実行委員長：風呂田利夫 東邦大学名誉教授

■開催日・日程

【開催日】 2014 年 9 月 18 日(木)～9 月 20 日(土)（エクスカーシオンは含まず）

【日程案】 9 月 18 日(木)：ポスター発表、自由集会

9 月 19 日(金)：口頭発表、自由集会、懇親会

9 月 20 日(土)：総会、公開シンポジウム

※日程については、今後の調整で変更となる場合もあります。

※エクスカーシオンは 17 日(水)または 21 日(日)で考えております。

■会場

【開催場所】 首都大学東京 南大沢キャンパス

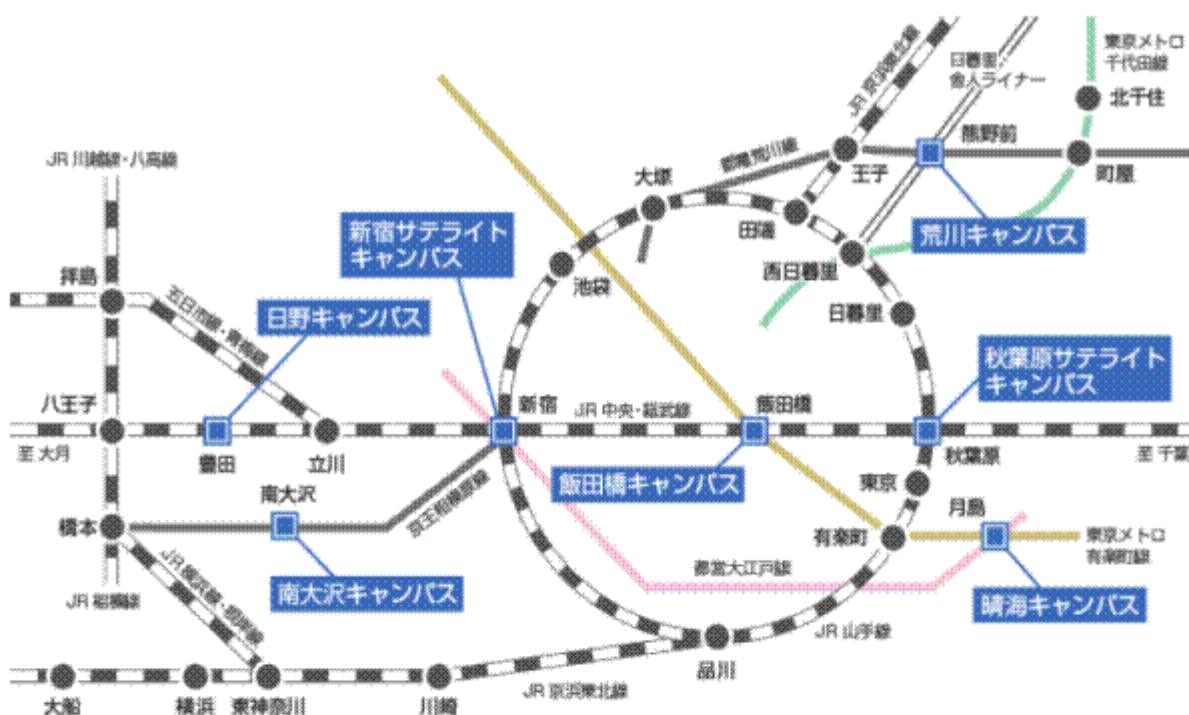
【所在地】：東京都八王子市南大沢 1-1

【交通】：京王電鉄相模原線「南大沢」駅から徒歩約 5 分

■公開シンポジウムのテーマ（案）

「地下を流れる水と応用生態工学の接点」

各キャンパスの位置



各キャンパスの交通アクセス

南大沢キャンパス

所在地

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
TEL 042-677-1111(代)

所属組織

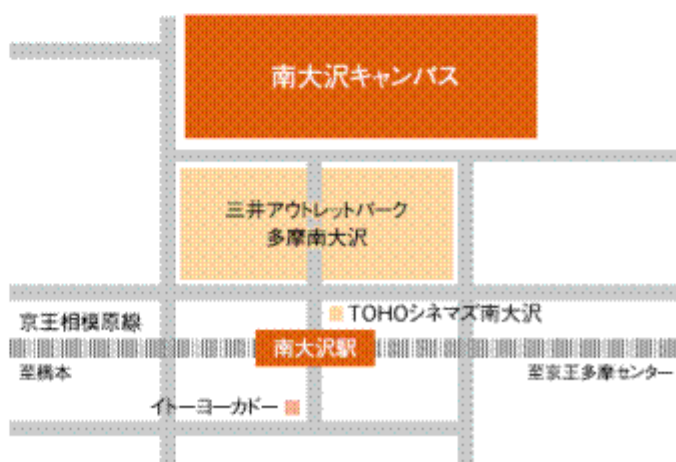
都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、
社会科学研究科、理工学研究科、都市環境科学
研究科、人間健康科学研究科、ヘルスプロモ
ーションサイエンス学域

アクセス

■京王線相模原線「南大沢」駅下車

改札口から徒歩約5分

※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパ
スが見えます。



5 行事報告

5-1 応用生態工学金沢 第 2 回研究発表会「川と人との関わりについて」の結果報告

5.1.1 【はじめに】(柳井 清治 会長)

応用生態工学金沢の第 2 回研究発表会が平成25年11月15日(金)に金沢市県立音楽堂交流ホールで開催されました。冒頭、独立行政法人土木研究所の萱場氏に基調講演を頂き、引き続き研究発表 2 件と事例報告 3 件の報告がありました。参加者は県内の官庁、大学および民間コンサルタントを主として80名にのぼり、午後 1 時から 5 時までの 4 時間にわたり熱心に耳を傾けていました。この会を開催するにあたり、国土交通省北陸地方整備局、農林水産省北陸農政局、石川県、金沢市などの御後援をいただいたほか、石川県治水協会、北陸技術士懇談会から助成をいただきました。ご支援をいただいた諸団体に厚くお礼申し上げます。

以下、開催状況を報告します。



柳井会長

5.1.2 【研究発表会】(鈴木 俊弘、小坂 健一郎)

(1) 基調講演

研究発表会では、初めに萱場祐一氏(独立行政法人土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター長兼河川生態チーム上席研究員)より、「多自然川づくりの課題 そしてこれからの流れ」と題した基調講演をいただきました。

基調講演では河道掘削を題材に、生物多様性を代表する代用指標の設定、対象河川の変遷と今後の方向性、最低限保全が必要な最低値と理想値の設定、保全目標の優先度等、今後の多自然川づくりをどのように進めていくべきか、既往事例を踏まえながら解説していただきました。



萱場氏



会場の様子

(2) 研究・事例報告

基調講演後、研究報告 2 編、事例報告 3 編の報告を頂きました。研究報告では、藤原洋一石川県立大学准教授より「温暖化や人間活動に伴う河川水文・水質の変化：手取川流域を中心として」、鈴木洋之石川工業高等専門学校准教授より「ダムにおける流量推定の諸問題とその一対応」と題しまして、地元の手取川、神通川における研究成果の発表をしていただきました。

その後、休憩をはさんで民間会社より、環境製品の開発事例として「コケが自生できる植生コンクリー



藤原准教授



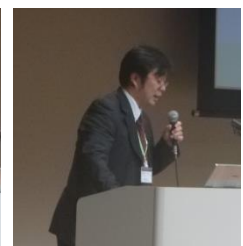
鈴木准教授



新氏



小坂氏



鈴木氏

トの施工事例」、兼六園における生物調査事例として「兼六園霞ヶ池の浚渫工事に伴う生物調査報告」、公共事業での生物保全事例として「北河内ダムにおける自然環境保全事例」の報告をいただきました。

研究・事例報告では、各報告で多数の質問が出て、予定よりも大幅に時間を超過し有意義な議論となりました。



会場からの質問の様子

(3) 意見交換会

意見交換会は、研究・事例報告の発表いただいた 5 氏に壇上へ上がっていただき、柳井会長をコーディネーターとして、会場からの質問に回答する形で進行了ました。

会場からの質問は、研究・事例報告後に質問カードを用いて募集したのですが、多くの質問・意見をいただきました。そのため、予定時間内に全ての質問に回答することができずに終了となり、参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

全体を通して会場から活発な意見・質問があり、大成功の大会になったことをこの場を借りてお礼申し上げます。



意見交換会の様子

(4) 会場について

会場は、音楽堂の交流交通利便性と P R 効果を高めるため、J R 金沢駅に隣接する県立音楽堂交流ホールとしました。音楽堂の月間スケジュールに掲載していただくことで、参加しなかった方々に対しても会の P R ができたと思われます。スクリーンは、会場備え付けのものでなく 250 インチの大スクリーンを用い、大迫力で後列においても十分見ることができ好評でした。

5.1.3 【交流会】(中谷 聡)

交流会は、研究発表会が行われた石川県立音楽堂より徒歩 5 分程度の金沢市堀川新町にある居酒屋で行いました。今回の会場は、参加者の方々が自由に行動できるようにとの考えからテーブル席としました。

柳井会長の開会の挨拶と乾杯とともに交流会が始まりました。交流会が盛り上がってきたきところ、参加者の皆さんは自由に行動され、お酒を酌み交わしながら交流を深められ、会場は熱気で額に汗をかくほど盛り上がりました。

交流会後半には、来年に富山で開催されるワークショップの実行委員である高橋教授（富山県立大学）と佐渡氏の挨拶があり、また、来春大学を卒業される 2 名からも発表会・交流会の感想の発表などがあ

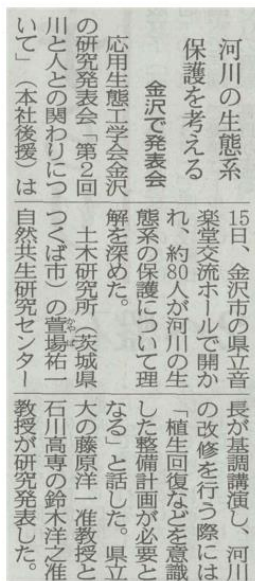


柳副会長

りました。盛大に盛り上がった交流会の最後は、柳副会長の挨拶・万歳三唱にて閉会いたしました。

5.1.4 【全体感想】（山本 光利）

初めての試みで開催された 3 年前の勉強会は 3 名の大学教授による講演でした。今回は、学・官・民から講演、発表がありました。大会の参加者は 80 名で、うち学生が 20 名のほか、各界からの若い参加者が非常に多かったことが特徴でした。学生は生態学系の分野を学んでおられるようで、研究発表が現場に直面した内容や差し迫った課題を取り上げたものなどの具体的な発表であり、頭に入りやすく大変参考になったのではないかと思います。また、質問カードには学生さんからの記載も多く、大会への参画意欲や学ぼうとするポジティブな姿勢がうかがえました。今大会は、幅広い若い層が発表し会場との自由闊達な意見交換ができ、盛会裏に終了しました。しかし、質疑応答の時間が必ずしも十分とは言えず時間設定など今後の課題でもあります。いずれにしても、今大会を生かし、若い技術者の自己PRには絶好の機会ととらえ、今後とも多くの若い技術者、学生さんたちの参加で大会を盛り上げていきたいと思っています。



5-2 応用生態工学会福岡2013ー九州の応用生態工学の事例と研究ー（第3回九州地区事例発表会）の報告

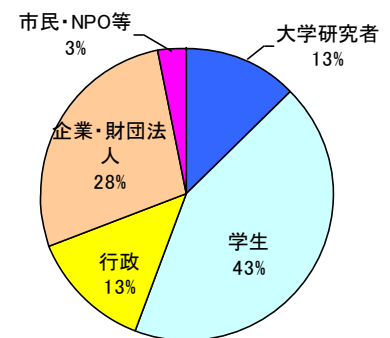
応用生態工学会 福岡
酒井 奈美（西日本技術開発(株)）

5-2-1 【はじめに】

応用生態工学会福岡では、九州における応用生態工学の普及・連携強化などを目的に、研究等の成果を気軽に発表・参加できる機会として、第1回（2008年）、第2回（2010年）に引き続き、第3回目の発表会を開催いたしました。今回はさまざまな分野の方々から40件以上の発表をいただき、九州各地の実務的な研究・業務事例の情報共有を通じて、産官学民の交流の場となりました。

5-1-2 【開催概要】

- 日時：2013年12月6日（金）9：50～18：00
- 会場：九州大学西新プラザ
- 発表件数：43件（口頭発表：16件 ポスター発表：27件）
- 参加人数（発表者含む）：101名（応用生態工学会会員：32名、非会員：69名）
- 参加費：学会員・学生・発表者：無料 非会員：2,000円 懇親会費：3,000円（学生無料）
- 懇親会：18：00～20：00 西新プラザ内 参加者：約40名



参加者の所属別内訳（計101名）

5-1-3 口頭発表

口頭発表は16件（大学：5件、行政：3件、民間+行政：3件、市民：1件）の発表をいただきました。

応用生態工学会副会長である島谷幸宏氏の開会挨拶にはじまり、午前10時から午後6時まで、九州各県での研究・業務の実務的な事例が発表されました。発表会中の座長は九州大学林博徳氏、熊本大学皆川朋子氏、九州大学島谷幸宏氏に務めていただき、活発な議論がなされました。（発表プログラムは応用生態工学会HPに掲載しています）

各研究・業務事例のフィールドは、河川・ダム・道路・森林・干潟・農業水路・海岸等と多岐にわたり、事業等における生態系への影響評価や生態系の保全・再生手法、維持管理、生態分布予測モデル・災害復興等、バラエティーに富んだ盛りだくさんの内容でした。

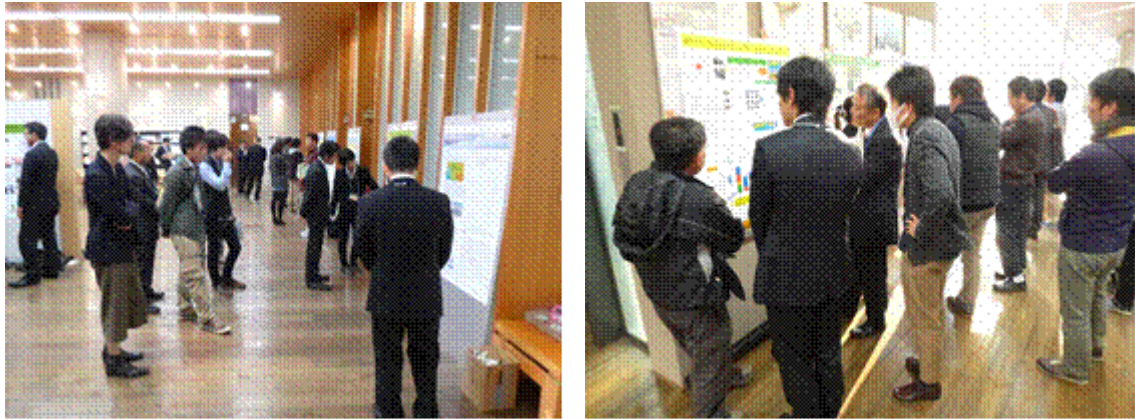
最後に、応用生態工学会の名誉会員である小野勇一氏にご挨拶をいただき、盛況のうちに閉会しました。



口頭発表の様子

5-1-4 ポスター発表

ポスター発表は 90 分のコアタイムを設け、27 件の方に発表をいただきました。会場の展示ホールの壁一面にところ狭しとポスターが掲げられ、活発な議論が交わされました。ポスター発表では特に学生の発表が多く、生態系・水質・土砂等の物理環境に関するもの、先輩研究者や技術者からのアドバイス・激励などが寄せられ、発表者のみなさんにとっても良い研鑽の場となったのではないのでしょうか。



ポスター発表の様子

5-1-5 優秀発表賞

今回の発表会では、参加者に投票用紙をお配りし、口頭発表・ポスター発表それぞれについて投票していただきました。投票数の最も多かった以下の発表を最優秀発表賞とし、懇親会会場にて表彰式を行いました。

口頭発表：「平田川におけるトビケラ対策」新納竜市,小野克也(大分県別府土木事務所河港砂防課)

ポスター発表：「菊池川における河道内氾濫原再生のための基礎研究」恒崎大輔,皆川朋子(熊本大学工学部社会環境工学科)



表彰式の様子

5-1-6 懇親会

懇親会は発表会の終了後、ポスター発表会場の展示ホールにて開催しました。島谷副会長の開会宣言・乾杯に始まり、約 40 名の参加者により終始賑やかな懇親会となりました。歓談が一段落したところで最優秀発表賞の表彰式を行い、あっという間に 2 時間が過ぎ、九州歯科大学の荒井秋晴氏に閉会のご挨拶をいただきお開きとなりました。



懇親会の様子

5-1-7 アンケート結果

今回の開催内容や応用生態工学会の認知度等についてアンケートを行い、多くの方に回答をいただき、今後の活動の参考になる意見が寄せられました。以下に感想の抜粋をご紹介します。

●参加者の感想(抜粋)

- ・ どの発表も非常に面白く、大変刺激を受けた。次も機会があれば参加したい。
- ・ 工学の知識が無くても興味深い内容だった。分かり易く楽しく聴くことができた。

- ・多くの発表があり良かった。最近の事例研究の情報を収集することができた。
- ・テーマが幅広く多種多様で、様々な視点からの発表で興味深かった。バラエティーに富んでいた。
- ・非常に高度な解析の活用など技術・検討レベルが上がっていることを実感した。
- ・学識者、行政、民間の方などから取り組み事例や今後の展望などがあり非常に勉強になった。
- ・実学的なもの、業務の参考になる話題が多く大変有意義な会だった。発表のクオリティが高かった。
- ・設計・コンサル技術者として非常に有効な発表会と感じた。
- ・事例発表があると、現況業務や今後の業務計画に非常に役立ち地域に密着した成果を提示できる良い機会と思う。
- ・生態系に関わる様々な知識、環境保全の取り組みを知ることができ有意義だった。
- ・発表にあった東北の復興など今後の政策に関わることに注目していきたい。
- ・生物に限らず震災等、人間生活のためになる
- ・内容もあり、多様なトピックの議論が聞けてためになった。
- ・事業者の視点で見ると疑問に思うことが多々あったため技術の活用をしっかりと考える必要があると感じた。
- ・九州という自然がまだ豊かな地域を大切にしていきたいという気持ちが強まった。
- ・皆さんの活動・仕事が九州の自然環境や生物を保全する大切な貴重な価値あるものとなっていると感じた。
- ・今後生物に配慮した開発整備を行わなければならないと改めて感じた。
- ・事業における環境の取り扱いが難しいことを再認識した。
- ・若い方、学生が多いのに驚いた。
- ・自分の取得している資格に関わる話があり興味が持てた。
- ・ポスター発表でたくさんアドバイスがもらえて良かった。様々な方面の方に自分の研究成果を見ていただく機会になり面白かった。
- ・自分の発表に近い研究もありとても勉強になった。今後も参加したい。

●今後の要望等

- ・他分野の境界領域の重要なポジションと思う。交流が活発化することを願っている。
- ・2～3年に1回のペースで積極的に開催されることを希望する。
- ・現地視察会、行政職員対象の勉強会や研修会（環境行政）の開催を希望する。
- ・九州では機会が少ないので今後も継続し、発表会回数を増やし、参加する機会が増えると嬉しい。
- ・全国の事例を九州で発表していただくような場や機会が欲しい（ゲストを招いての講習）。
- ・今回のように事例が多く入っている発表会が良い。

5-1-8 おわりに

九州地区事例発表会は今回が3回目の開催でしたが、今回は過去にない多くの発表が寄せられ、大学研究者や学生の方々はもとより、行政、企業や財団、市民団体の方々からも多数発表いただくことができ、今回の目的のひとつであった九州地区における応用生態工学の発展と産官学民の連携強化のきっかけになったのではないかと思います。

また、九州は現在でも豊かな自然が残り、保全対策などの取り組みも各地で行われていることが紹介され、今後の応用生態工学のフィールドとしても発展していくことを願っております。

九州地区での事例発表会等は今後も不定期で開催していきたいと思いますので、乞うご期待ください。

最後に、貴重な事例をご発表いただきました発表者のみなさま、企画・運営にご協力いただきました島谷副会長はじめ学会員のみなさま、発表会にご参加いただいたすべてのみなさまに心より御礼申し上げます。

6 理事会、幹事会報告

6-1 第 58 回幹事会、第 68 回理事会合同役員会 (20130921)

日時：2013 年 9 月 21 日 (土) 12:10~12:50

場所：大阪府立大学 I-site なんば A-1、A-2

- ・役員改選後の合同役員会で、規約により、萱場幹事が副幹事長に、会長職職務代行者に中村副会長が、それぞれ会長から任命れた。

6-2 第 69 回理事会 (20131220~メール会議)

- ・2014 年第 18 回大会は、東京 (首都大学東京) に決定した、実行委員長に風呂田利夫東邦大学名誉教授が選任された。—詳細は本ニュースレター—第 18 東京大会開催案内—参照

6-3 第 59 回幹事会 (20131204)

日時：2013 年 12 月 4 日 (水) 14:00~16:30

場所：麴町学会事務所

- ・審議事項、報告事項とも以下に示す「6-4 第 70 回理事会」と共通しており、理事会の審議結果は幹事会意見を反映したものとなっていますので、以下の理事会報告をご覧ください

6-4 第 70 回理事会

6-4-1 審議事項

【審議事項-1】理事-幹事担当制について

理事-幹事担当制は、第 65 回理事会 (2013 年 6 月 5 日) において審議が行なわれ、学会運営課題解決の迅速化・効率化と、学会の活性化等を図る方策として、理事-幹事の班編制を構築する担当制への移行が了承され、以降、実施に移されていた。

ところが、第 17 回総会 (2013 年 9 月 21 日) において役員が改選されたことから、これに伴い、新たな班編制を構築する必要があると、第 59 回幹事会 (2013 年 12 月 4 日) で議論した素案について、理事会で審議したものである。

併せて、第 3 次中期計画の評価と次期中期計画の策定について検討する班として、新たに中期計画対応班を設置することについて審議した。

審議結果は

- ・まだ全容が決まっていない技術援助委員会と連携する「技術援助活動班」を除き、原案 (次ページ表を参照) を了承した。
- ・各班 (財政・組織運営班、学術成果総括活動班、研究活動奨励班、技術援助活動班、広報班、全国活動運営班、国際交流/ICLEE 対応班、中期計画対応班、特命班 1 (大規模災害か

らの復旧と環境保全・復元への応用生態工学会声帯工学の貢献)) には担当する理事、幹事が参画し、従来からの委員会と連携し、学会活動を活性化することとなった。

理事-幹事担当制表

第9期役員	財政・総務運営班	学術成果報告活動班	研究活動奨励班	技術援助活動班	広報班	全国活動運営班	国際交流/OLEE対応班	中間計画対応班	特命班1
会長	谷田 一三								大規模災害からの復旧と環境保全・復元への応用生態工学の貢献
副会長	中村 太士	②					②	○将来運営委員会	
副会長	森谷 幸典		③会誌編集委員						○
副会長	生明 功臣								
理事	落枝 隆						OLEE編集委員		
理事	河崎 和明	○							
理事	久保田 勝	③事務局改善WG							
理事	藤原 寛夫								
理事	甲村 謙友								○
理事	島崎 由緒	○テキスト刊行委員			③情報サービスマン委員				○
理事	清水 豊彦								③
理事	角 智也								
理事	関 吉巳								
理事	望月 恒夫	○テキスト刊行委員				③			
理事	高村 茂子								
理事	成田 賢				○				
理事	重呂 利夫		○会誌編集委員						
理事	渡辺 剛					○			
理事	渡邊 慶文								
幹事長	榎田 乾一	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
副幹事長	重場 祐一		③テキスト刊行委員長	↑↑	↑↑	↑↑		↑↑	
幹事	阪谷 伏藏		○テキスト刊行委員	○	③情報サービスマン委員長			○	
幹事	田代 藩					○			
幹事	藤井 敦人	③事務局改善WG	○テキスト刊行委員					③	
幹事	三宅 洋		○テキスト刊行委員	③					
幹事	沖澤 二朗				○				
幹事	佐川 志朗					③			
幹事	竹林 洋史	○							
幹事	東城 幸治			○					
幹事	中村 第一			③					
幹事	西廣 洋							○	
幹事	相澤 二郎	○							○
幹事	青山 謙英								
幹事	吉村 干洋						③		③

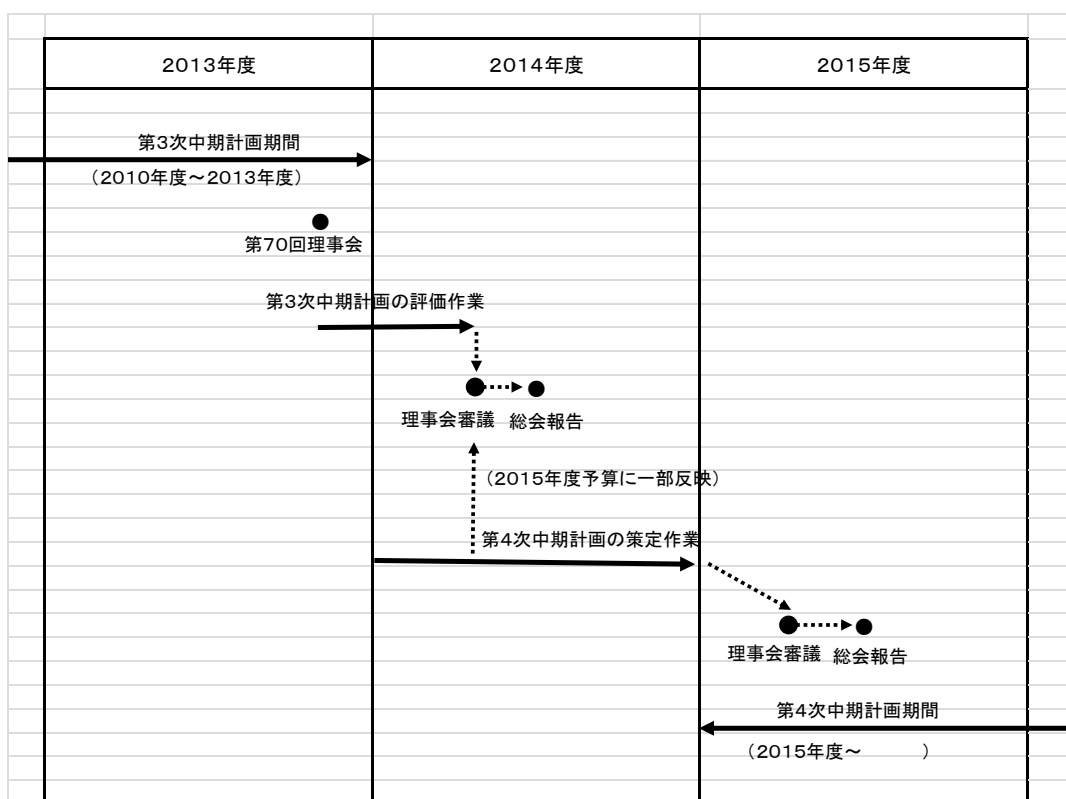
会誌編集委員：余路 第一 技術援助委員：辻本 隆弘 普及・運営委員：菅門 隆弘 国際交流委員：五井 新市 将来運営委員：谷田 一三

【審議事項－２】第３次中期計画の評価と次期計画の取り組み

第３次中期計画（2010 年度～2013 年度）は、2013 年度で終了する。この「評価」は、今後の学会運営の指針策定に不可欠なものであり、評価作業をいつまでに終わらすか、これを受けて次期計画をいつ策定するか等について審議した。

審議結果は

- ・第３次中期計画の評価作業と次期計画作成工程原案（本日の理事会以降、直ちに評価作業に入り、2014 年度総会で評価を報告、一部は 2015 年度予算に反映、次期計画は 2015 年度を初年度とする）を了承した。
- ・３次計画評価作業は、中期計画担当班が具体的作業を総括する。会長からは評価単位の各委員会等へは、早速作業依頼を発信する。
- ・次期計画の策定は、将来構想委員会が構想し、上部構造として「中期計画対応班」があり、理事会と連動しながら計画を固めて行く原案を承認した



【審議事項－３】委員長、委員の委嘱

2014 年 3 月 31 日で任期切れになる「各委員会委員の委嘱」について審議した。

- ・理事会当日までに提案されている「国際交流委員会」、「テキスト刊行委員会」について承認した
- ・これ以外の委員会については、推薦案がまとまり次第、理事会メール会議を開催して、承認を求めることに決した。

No.		氏名	勤務先組織
1	現委員長、継続	五味 高志	東京農工大学 准教授
2	継続	石澤 伸彰	応用地質株式会社 東京支社
3	継続	河口 洋一	徳島大学工学部 准教授
4	継続	知花 武佳	東京大学工学系研究科 准教授
5	交代予定	内藤 正彦	国土交通省水管理・国土保全局 河川計画課河川情報企画室長
6	継続	藤野 毅	埼玉大学理工学研究科 准教授
7	新任	傳田正利	安田成夫と交代、土研河川生態チーム主任研究員
8	次期委員長	吉村 千洋	東京工業大学 大学院 准教授
9	担当理事、継続	中村 太士	北海道大学大学院 教授

テキスト刊行委員会

No.		氏名	勤務先組織
1	継続	萱場 祐一	土木研究所自然共生研究センター自然共生研究センター長
2	〃	仮谷 伏竜	株式会社建設技術研究所 北海道支社環境室主幹
3	〃	河口 洋一	徳島大学工学部 准教授
2	〃	島崎 由美	いであ株式会社 内部統制本部 本部長代理
5	〃	関島 恒夫	新潟大学大学院 生産環境科学科 教授
5	〃	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官
6	〃	西 浩司	いであ株式会社 国土環境研究所生物多様性研究部長
6	〃	三宅 洋	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻 准教授

【審議事項－４】韓国応用生態工学会とのMOU締結

昨年 12 月に、韓国応用生態工学会から提案された MOU 「Memorandum of Understanding」締結について審議した。

- ・審議の結果、MOU 締結は応用生態工学会の活動に必要であることを認識し、締結の交渉を開始することを決定した。
- ・日本側の交渉担当は 国際交流委員会とし、次期委員長に推されている吉村委員を指名した。

7 2013 年度行事結果と今後の予定

	2013 年度（平成 25 年度）開始
2. 17～4. 19	海外学会派遣研究者の公募
4. 24	応用生態工学会大阪大会第 1 回実行委員会（大阪府立大学 I-site なんば）
5 月中旬	第 1 回次期役員募集・推薦委員会
5. 21	第 55 回幹事会（麴町：応用生態工学会事務所）
5. 21	応用生態工学会会誌編集委員会（麴町：応用生態工学会事務所）
5. 21	テキスト刊行委員会（麴町：応用生態工学会事務所）
6. 1	ニュースレター60号 発行
6 月中	次期役員・募集期間
6. 5	第 65 回理事会（麴町NKビル 2 階WEC会議室）
6. 14	第 3 回遠賀川中島自然再生研究会 in 福岡（福岡県中間市中島）
7. 1	第 2 回次期役員募集・推薦委員会
8. 1	第 56 回幹事会
8. 9	<協 賛> 平成 25 年度「瀬戸内海研究フォーラム in 山口」 （宇部市文化会館文化ホール）
8. 22	ニュースレター61号 発行
8. 23	第 66 回理事会
8. 26～27	第 5 回フィールドシンポジウム in 北海道 （応用生態札幌セミナーその 8）
9. 20	会誌「応用生態工学 Vol. 16-1」（発行予定）
9. 2～5	<後 援> The 12th International Symposium on River Sedimentation (ISRS2013)（京都市：京都テルサ）
9. 18～21	応用生態工学会大阪大会 9 月 18 日(水)： エクスカーション 9 月 19 日(木)： ポスター発表, 自由集会 9 月 20 日(金)： 口頭発表, 特別セッション, 自由集会, 懇親会 9 月 21 日(土)： 第 17 回総会, 第 67 回理事会, 第 57 回幹事会 第 58 回幹事会、第 68 回理事会合同役員会 公開シンポジウム（大阪府立大学 I-site なんば）
9. 22	<後援> 平成 25 年度 水源地生態研究報告会 （大阪府立大学 I-site なんば）
9. 25	<後援> 第 6 回淡水魚保全シンポジウム淀川大会 ～地域でまもり, みんなで育む淡水魚～ （OIT ホールおよび研修棟(常翔学園大阪工業大学)）

11. 8～9	第 12 回 北信越現地ワークショップ in 福井 越前・若狭の里山とその保全・再生（コウノトリを視軸として） 11 月 8 日（金）：ワークショップ（南越前町 南条文化会館） 11 月 9 日（土）：現地見学（日野川魚道群、越前市エコビレッジ交流センター、吉野瀬川ダム事業関連ビオトープ、コウノトリ飼育施設）
11. 13	<共催>第 16 回 河川生態学術研究発表会（東京証券会館、茅場町）
11. 15	第 2 回応用生態工学会金沢 研究発表会「川と人との関わりについて」 （石川県立音楽堂 交流ホール）
12. 4	第 59 回幹事会（麹町：応用生態工学会事務所）
12. 6	応用生態工学会福岡 2013—九州の応用生態工学の事例と研究— （九州大学西新プラザ）
12. 13	ニュースレター62 号 発行（大阪大会特集）
12. 20～25	第 69 回理事会（メール会議）
2. 5	2014 年度海外学会派遣者募集
2. 13	第 68 回理事会
2. 21	ニュースレター63 号 発行
2. 28	流域生態系と放射性物質動態に関連する国際シンポジウム（予定）
3	会誌「応用生態工学 Vol. 16-2」（発行予定）
2013 年度終了	2013 年度終了

8 事務局より

このニュースレターでは、理事会で「理事-幹事担当制」が動き出している情報をお届けしました。また、円滑、かつ持続可能な学会運営のために、中期計画の見直しが始められようとしています。事務局を担当していると、実に様々なお立場の多くの会員が運営に参加していることを日々実感しています。運営に対する会員のご参加が、いっそう盛んになればと思うこの頃です。

8-1 メールアドレス登録のお願い

本ニュースレターは、学会ホームページにアップロードした PDF ファイルの URL を、登録頂いたメールアドレスに送信していくこととなっております。

まだ、メールアドレスをご連絡頂いていない会員の方には、引き続きメールアドレスの登録をお願いいたします。経費削減対策の一つとなっておりますので、できるだけ電子配信にご協力下さい。

また、せっかく会費をお支払い頂いておりながら、アドレスエラーや転居先不明でニュースレターや学会誌が戻ってくるケースがあります。転居等されましたら、新しいご連絡先をお教え下さい。

メールアドレスを登録する場合は、下記の学会ホームページからお知らせ下さい.

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

8.2 事務局への連絡方法

今年は、新規入会会員、退会する会員の出入りが多い年になりました。そのためお問い合わせも多くいただきました

今後、ホームページの案内をいっそう工夫することも考えますが、事務局へのお問い合わせや連絡は、まずはメールでお願いします。記録が残り、間違いがすくなくなりますので、電話より有効です。

学会事務局のアドレスは、e-mail eces-manager@ecesj.com です。 よろしくお願いいたします。

.....
..

[2014 年 1 月 1 日現在会員数]

名誉会員	:	4 名	
正 会 員	:	9 7 9 名	
学生会員	:	1 0 5 名	
合 計	:	1 0 8 8 名	(2014 年 3 月 31 日付 退会申し出者を除いた数字)

LEE 購読者数

正会員	:	9 8 名
学生会員	:	3 名
合計	:	1 0 1 名

賛助会員 : 29 法人 (43 口)

.....